

第2回 柳井市総合計画審議会 議事録(要旨)

日時	令和8年7月17日(金曜日) 10:00~12:20
場所	市役所3階 大会議室
出席者 (敬称略)	委 員:脇野 幸太郎(周南公立大学)、秋田 京子(柳井商工会議所)、藤中 孝子(大畠商工会)、酒井 章(山口県漁業協同組合柳井支店)、金田 佳紀(柳井商工会議所金融部会)、梅村 友美(柳井地区労働者福祉協議会)、西岡 琴美(柳井市教育委員会)、石原 良晃(大島商船高等専門学校)、宗里 照美(山口県保育協会柳井支部)、佐川 京子(山口県厚生農業協同組合連合会周東総合病院)、吉山 夕佳里(柳井市社会福祉協議会)、松重 伸子(柳井市観光協会)、砂田 真二(柳井地区広域消防組合)、芦岡 啓子(柳井市民生委員児童委員協議会)、三浦 真理花(株式会社周防ケーブルネット)、中原 千恵子(柳井市女性団体連絡協議会)、松中 透(柳井市地区コミュニティ連絡協議会)、田中 朋子(公募市民)、藤本 恵理(公募市民) 欠席:山本 伸一(山口県農業協同組合南すおう統括本部) 事務局:井原市長、宮本副市長、西元教育長、藤村総合政策部長、丸川総務部長、磯部建設部長、有道経済部長、高石市民部長、益田健康福祉部長、山本教育部長、丸川会計管理者、三浦政策企画課長、惣上分政策企画課長補佐、柳本政策企画課主査
次第	1 開会 2 会長挨拶 3 市長挨拶 4 議事 (1)第3次柳井市総合計画の策定に向けた市民懇談会について (2)第3次柳井市総合計画基本構想(案)について (3)第3次柳井市総合計画基本計画(案)について 5 その他

■議事概要

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 市長挨拶

4 議事

【会長】

会議次第に従い、議事を進行する。最初に、委員の出席状況を確認し、本委員20名のうち19名が出席しており、審議会条例第6条第2項の規定により会議が成立していることを報告する。続いて、事務局に資料の説明をお願いしたい。

・事務局より資料の説明

【会長】

まず、議題(1)第3次柳井市総合計画の策定に向けた市民懇談会について、事務局に説明をお願いしたい。

【三浦政策企画課長】

本日机上配布した「第3次柳井市総合計画の策定に向けた市民懇談会(報告)」に基づき説明。

【会長】

ただいま説明のあった部分について、委員の皆様からご意見ご質問等あればお願いしたい。

ー特になしー

続いて、議題(2)第3次柳井市総合計画基本構想(案)について、事務局に説明をお願いしたい。

【柳本政策企画課主査】

資料2「第3次柳井市総合計画基本構想(案)の変更点について」及び資料4「第3次柳井市総合計画基本構想(案)」に基づき説明。

【会長】

ただいま、前回第1回審議会での議論を踏まえ、その内容に基づいた基本構想(案)の変更点の説明を受けた。この部分について、委員の皆様からご意見ご質問などあればお願いしたい。

ー特になしー

続いて、議題(3)第3次柳井市総合計画基本計画(案)について、事務局に説明をお願いしたい。

【三浦政策企画課長】

資料3「第3次柳井市総合計画基本計画の説明について」に基づき説明。

【会長】

ただいま、基本計画の全体の構成と、その構成等の考え方について説明を受けた。また、事務局から各基本目標等について審議する視点が示された。1点目として、施策として過不足がないか。2点目として、施策の方向性に誤りがないか。3点目として、表現として分かりにくい点がないか。以上主に3つの視点を踏まえ、委員の皆様からご意見ご質問などあればお願いしたい。基本目標1つにつき 10 分程度を目途に審議いただきたいと思う。まず、基本目標Ⅰ「協働で目指す持続可能なまち【自治体経営】」について、事務局から説明をお願いしたい。

【三浦政策企画課長】

資料5「第3次柳井市総合計画基本計画(案)」に基づき説明。

【会長】

ただいま説明を受けた基本目標Ⅰの部分について、委員の皆様からご意見ご質問などあればお願いしたい。

【委員】

基本目標Ⅰに掲げる「協働」、「持続可能」という考え方は大きなキーワードになると思う。まちづくりは人づくりから始まると思うが、これからの社会はウェルビーイングなど、精神的な心の豊かさが大事になる。そのことで、基本目標の初めに掲げたことはアピール度が高いなと思った。

【委員】

地域の夢プランについて、現在の作成地区数と、最終的に何地区での作成を想定しているのか教えてほしい。また、地域の高齢化が進む中、働き盛りの世代と高齢者でどのような協働を想定しているのか、教えていただきたい。

【藤村総合政策部長】

地域の夢プラン策定の最終的な想定数ということだが、令和7年度時点で日積、伊陸、新庄、伊保庄、阿月、平郡東、平郡西、柳北地区と8地区で策定している。現在、大畠地区で策定に取りかかっている。残りの地区、それからまちなかの夢プランを今策定しているが、まちなか夢プランを具体的にエリアをどの範囲に設定していくか決め切れていないところがある。その辺りの想定がついていない現状を考えると、具体的に何地区かととなかなか申し上げにくいところではあるが、概ね12～14地区が想定になってくると考えている。それから、コミュニティも自治会活動も高齢化が進み、担い手の確保が難しいという現状は承知している。難題ではあるが、若い世代をどのような形で地域に参画してもらうか、その手法の一つとして地域の夢プランがある。地道な活動になるかもしれないが、そうした取組を市民の力・協働の中で謳っている。

【委員】

6ページ大きな3番の中にある多角的な支援の展開とは。

【藤村総合政策部長】

移住定住施策を進めるには、空き家バンクや各種補助制度だけでは難しい面がある。子育て支援や働く場の確保、企業誘致など、人を呼び込むような施策を多角的に展開していかなければいけないという考え方である。

【会長】

続いて、基本目標Ⅱ「誰もが尊重され、地域愛を育むまち【人権・教育・文化】」について、事務局から説明をお願いしたい。

【三浦政策企画課長】

資料5「第3次柳井市総合計画基本計画(案)」に基づき説明。

【会長】

ただいま説明を受けた基本目標Ⅱの部分について、委員の皆様からご意見ご質問などあればお願いしたい。

【委員】

人権・男女共同参画の項目が9～10 ページにわたり記載されている。昨今、男性、女性の役割分担意識の見直しの考え方や、自分の性認識・性自認といったことについて、色々と議論がされている。この基本施策基本方針に記載すべき施策として過不足がないかという視点から見た時に、この基本施策の内容に含まれているかどうか、色々意見があるところだと思うが、視点の一つとして検討されてもいいのではないかと思った。

【委員】

地域愛という言葉を使っている考えを聞かせてほしい。それから、人権・男女共同参画について、女性の登用が進んでいる現状を踏まえ、「男女共同参画」という表現をあえて設けず、「人権」だけでもよいのではないか。

【柳本政策企画課主査】

地域愛という表現については、今回計画を策定するに当たり、10 年を経て社会情勢は変化し、人口移動や価値観の多様化などが進んでいる中、出身地等に限らず、柳井市に住んで、働き、学び、関わるすべての人が、柳井市に対して愛着とか誇りを持ってもらいたいということで、郷土愛より幅広い意味を持つこの言葉選んでいる。

【三浦政策企画課長】

男女共同参画の視点については、現状と課題に触れてはいるが、法整備が進んでいる中、いまだ意識の醸成が十分でないところもあるので、現段階では、男女共同参画という表現で位置付けている。

【委員】

パートナー宣言について、計画内で触れても良いのではないか。

【藤村総合政策部長】

山口県や宇部市をはじめ、県内市町でもパートナーシップ宣言を導入している自治体があることは承知している。先ほど、LGBTQのご指摘もあったので、そのあたりも含めて、研究させてもらいたい。

【委員】

21 ページの文化・国際交流の「多文化共生」のまちづくりに取り組むことについて、具体的な施策があれば教えてほしい。

【藤村総合政策部長】

現時点での取組とすれば、「日本語で話そう」という講座を開催している。外国人の皆さんに日本語をレクチャーするだけでなく、地域の日本人も一緒に参加してもらい、多様な文化や考え方を共有するような勉強会である。

【委員】

言葉の隔たりが大きなトラブルの原因になることはよく分かる。身近な例では、ごみの出し方について、外国語で表記した案内を配布したり、アパート等に掲示したりするなど、市の施策として取り組んでいくとよいのではないかと。また、人口目標を概ね 25,000 人とするについて、現在の人口から減少することを目標とするのではなく、現状維持や 30,000 人を目指すなど、より高い目標を設定することも検討してはいかがかと。

【三浦政策企画課長】

22 ページになるが、外国人の移動や生活における利便性向上を図るために、いろいろと生活関連情報等の提供について外国語によるものに努めていきたいと方向性を表現している。それから、将来人口についてだが、概ね 25,000 人を目標人口としている。これについては、国立社会保障・人口問題研究所という機関において将来推計が発表されており、それを基に定めている。現状として、自然減が進んでおり、転入、転出の社会増減の部分で、社会増を目指し、人口減少に対応していく。現実的な人口減少を見据えた中での設定である。

【委員】

17 ページのスポーツ振興の成果指標について。競技者でなく、いろいろなレベル感でスポーツを楽しむ方が多い中で、そのような人たちを図る成果指標があってもいいのではないかと考えた。

【会長】

続いて、基本目標Ⅲ「健やかで優しく支えあうまち【福祉・健康・子育て】」について、事務局から説明をお願いしたい。

【三浦政策企画課長】

資料5「第3次柳井市総合計画基本計画(案)」に基づき説明。

【会長】

ただいま説明を受けた基本目標Ⅲの部分について、委員の皆様からご意見ご質問などあればお願いしたい。

【委員】

23 ページの地域福祉の部分について。ここに、一人暮らしの高齢者や子育て世帯が、いつでも安心して相談できる体制と書いてあるが、一人暮らしの高齢者に限定せず、高齢者や障がい者、子育て世代など、すべての地域住民というように文言の修正を検討してみたいかと。また、33 ページの人生会議(ACP)について、この言葉は現在、民生委員が積極的に活動していることなので、計画に明記されていることは良いと思う。それと、「地域」と「地域社会」の言葉の使い分けがどのように考えているのか気になった。

【委員】

高齢者が自ら申請しなければならない手続きは多々あるが、自分の親も高齢になり、活字を見ることを嫌がるようになってきている。広報紙等でお知らせしていると思うが、実際には情報を取りこぼしている方も多いのではないかと。各種の申請等について、まとめて説明する講座など、市民に分かりやすく情報

を提供する機会があれば、役立つのではないか。

【益田健康福祉部長】

情報発信について、基本的には広報紙、ホームページ、SNS 等を使っている。常々、高齢者の方への情報発信の仕方について、意識しながら取り組んでいる。今後も引き続き、どのような情報発信の仕方が高齢者に届くのか考えていきたい。

【三浦政策企画課長】

「地域」と「地域社会」の言葉の使い分けだが、「地域」とすると、場所や空間の広がり、その地域そのものを指す言葉であり、「地域社会」とするとその地域に住む人々、人と人との繋がりなど表現しているという認識である。

【委員】

29 ページにこども家庭センターについて触れられている。「やなでこ」という言葉がお母さん方にすぐく浸透しているので、計画内にその言葉を入れられないか。

【益田健康福祉部長】

「やなでこ」という言葉は、現在 SNS、インスタグラムなどでも使用している。今回の計画では言葉として出てきていないが、計画内に記載するかどうかについては、内部で検討していきたい。

【委員】

37 ページの社会保障の現状・課題の部分で、生活保護の問題が指摘されている。生活保護受給者には高齢者がかなりの割合を占めているのではないか。その中で早期の自立を支援するとあるが、ここでいう「自立」とは、生活保護を利用せず、自身で生活していけるようになることを想定しているのではないか。一般的にも、自立というと経済的な課題が解決され、生活保護を利用せずに生活できる状態を想定すると思うが、高齢者の中には、そうした経済的な自立が難しい方もいる。そのため、自立という言葉の使い方について、一度検討してもらいたい。

【会長】

続いて、基本目標Ⅳ「安心して暮らせる強靱なまち【都市基盤】」について、事務局から説明をお願いしたい。

【三浦政策企画課長】

資料5「第3次柳井市総合計画基本計画(案)」に基づき説明。

【会長】

ただいま説明を受けた基本目標Ⅳの部分について、委員の皆様からご意見ご質問などあればお願いしたい。

【委員】

43 ページの公共交通環境の整備とはどのようなものか。

【有道経済部長】

公共交通の利用不便区域について、予約制乗合タクシーを運行している。地域の実情に応じて、便数を増やすなど、進めていけたらと考えている。また、高校生以上と高齢者を対象としたYANACAというおでかけサポート事業も展開している。

【委員】

日積の高校生が、母親が働きに出ているため、自力で高校へ通うことが難しく、日積から柳井へ転居し、そこから高校へ通うようになったという話も聞いている。こうした実情も踏まえ、若者に対する支援についても検討してほしい。

【委員】

41 ページに市営住宅の関係が記載されている。この間の大雨の関係で、大畠の家が倒れ、使えない状態となり、近くの市営住宅に移られた。市営住宅の状態についてお聞きしたい。

【礒部建設部長】

市として、大雨等による災害で被災された方を受け入れるため、一定の住居を確保しており、必要に応じて紹介し、入居してもらっている。

【会長】

続いて、基本目標Ⅴ「安全と環境に配慮した快適なまち【安全・環境】」について、事務局から説明をお願いしたい。

【三浦政策企画課長】

資料5「第3次柳井市総合計画基本計画(案)」に基づき説明。

【会長】

ただいま説明を受けた基本目標Ⅴの部分について、委員の皆様からご意見ご質問などあればお願いしたい。

【委員】

49 ページの岩国基地での騒音について、最近特に航空機の通りが激しい。もう一度調べてもらえないか。

【丸川総務部長】

岩国基地をめぐる問題に関し、宮岬地区では、国の設置した騒音測定器で常時測定されている。騒音が最近多いことについては、米軍の訓練の関係で、岩国基地が利用される場合もあり、騒音の発生状況も多くなっていると思われる。このようなことは、山口県と基地周辺の市町で構成している山口県基地関係市町連絡協議会において、国に対し、改善に対する要望、要請活動を行っており、この8月にも広島県内の出先機関に要望に参る予定である。本市については、基地立地市である岩国市、或いは直接の周辺の和木町、周防大島町とは、騒音の発生状況が異なっており、なかなか国費の支援もない状況であるので、このことについて改善は難しいと考えている。

【委員】

防災メールがどのタイミングで発信されるかなど、熊対策について教えてほしい。

【有道経済部長】

熊についての情報発信ということで申し上げますと、市民の方から、あるいは警察を通して情報が入る場合がある。市が把握すると、すぐさま、情報を整理した上で、防災メール、公式 LINE で情報発信している。また、その情報について、学校などにも共有を図っている。

【会長】

続いて、基本目標Ⅵ「賑わいと活力あるまち【観光・産業】」について、事務局から説明をお願いしたい。

【三浦政策企画課長】

資料5「第3次柳井市総合計画基本計画(案)」に基づき説明。

【会長】

ただいま説明を受けた基本目標Ⅵの部分について、委員の皆様からご意見ご質問などあればお願いしたい。

【委員】

農林水産業に関して、以前、明治大学の学生が農業体験をしていたと記憶している。その学生の中には、大学卒業後に就農した方や、卒業後も柳井市を訪れている方もいる。農業を体験する機会を増やすことは、関係人口の創出にもつながると考えるので、こうした取組を検討してほしい。

【有道経済部長】

本市としても、県の山口農業大学校の学生を支援するなど、新規就農につながる取組に力を入れている。69 ページの農業の持続的発展に向けた生産基盤の強化と担い手の確保の推進においても、大変重要な施策として位置付け、その取組について記載している。

【委員】

JR を利用する観光客を多く見かけるが、最近、コインロッカーがキャッシュレス専用となり、現金が使えなくなったことで困っているという声をよく聞く。観光客の利便性向上のため、何らかの対策を検討してもらえないか。

【有道経済部長】

そのような現状に対して、現時点で具体的な対策をお示しすることは難しいが、観光客に対するおもてなしや、より丁寧な対応については、今後検討していきたい。

【委員】

基本構想の9 ページに「身体的、精神的、社会的に満たされた状態」と明記されているが、その意味をより分かりやすく示すため、括弧書きで「ウェルビーイング」と明記してもよいのではないか。

【三浦政策企画課長】

文言として計画に入れていくかどうか検討させてもらう。

【委員】

6ページの定住する場所として選ばれるよう多角的な支援の部分について、子育て世代だけでなく、退職後などに故郷や田舎に戻って生活したいと考えている60歳代などに対する支援についても、検討してはいかがかと思う。

【会長】

本日の審議については以上とさせていただく。事務局におかれては、本日いただいたご意見、ご提言を今後の総合計画策定に生かしてくださるようお願いする。

5 その他

【三浦政策企画課長】

今後の予定について説明する。

次回審議会を8月17日(月)10時から12時で開催する。本日の審議会での意見に加え、市民懇談会での意見について取りまとめを行い、計画への反映を整理し、ご報告したいと考えている。

以上